



IFC | International
Finance Corporation
World Bank Group



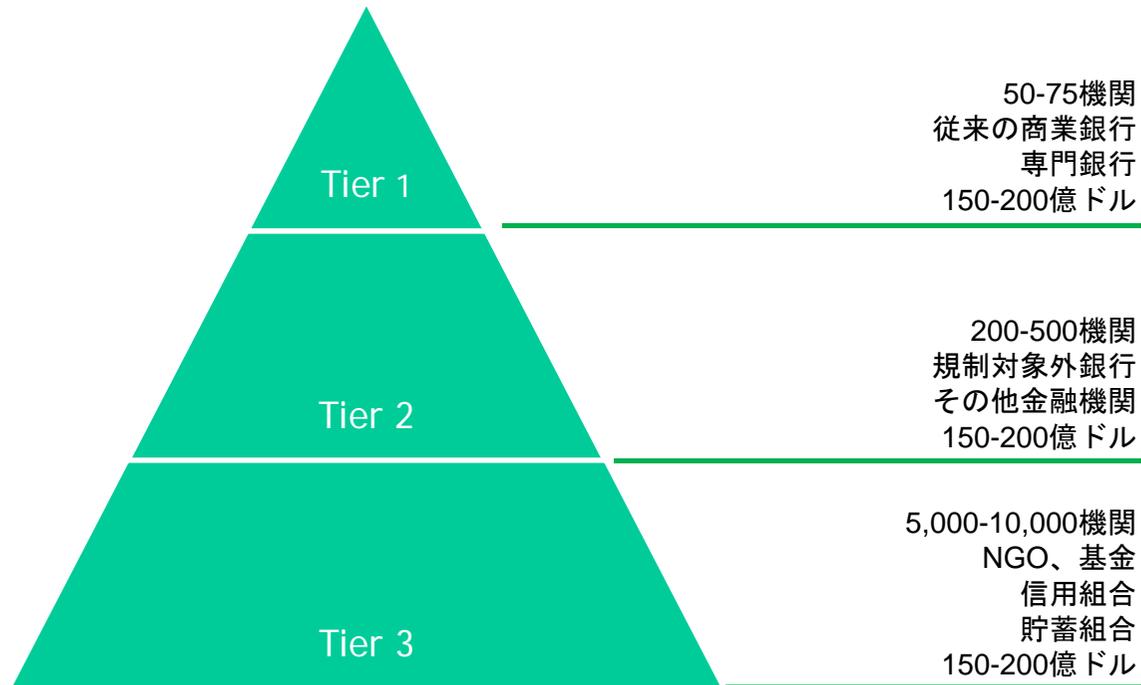
アジアにおける マイクロファイナンスと IFCの役割

2012年10月

マイクロファイナンスについて

- マイクロファイナンス機関（MFI）は資金へのアクセスと金融サービスを提供
- エコノミスト誌（2012/2/25）は「ファイナンシャル・イノベーション」として紹介
- 中小零細企業や低所得世帯向けに融資を行う
- MFIの貸出資産は業界全体で600～1,000億ドル
- 1億ドル以上の資産を有するMFIが100行以上存在
- 主要MFIは過去5年間で年間20%の成長を記録
- 市場成長は堅調だが、世界経済減速の影響も受ける
- 労働集約型であり、人件費等の営業費用が売上高の15%と従来の銀行の10倍のコスト
- マイクロクレジット（貸出）の貸倒率は低い（30日以上の延滞債権は2-3%）
- 主要MFIはRoAで4-5%、RoEで15-20%に達する

マイクロファイナンス機関概観



- 開発金融機関による貸出は2010年に12億米ドル
- IFCは世界トップ3の投資家の1つ
- 世銀グループ全体では世界最大の資金の出し手

出典: Symbiotics, CGAP Funder Survey 2011

IFCの取り組み① カタリスト（触媒）としての役割

1995年～2007年

1995年

✓K-Rep Bank（ケニア）への出資

マイクロファイナンスにフォーカスしたアフリカで最初の商業銀行

1997-1998年

✓ボスニア・ヘルツェゴビナにおけるマイクロファイナンス銀行の設立支援

マイクロファイナンス持株会社モデルの立ち上げ

2000-2002年

✓Pro Credit社（ボスニア・ヘルツェゴビナ）モデルの本格展開

✓アクレダ銀行（カンボジア）とコンパルタモス社（メキシコ）の商業銀行への移行

マイクロファイナンス機関の商業銀行への移行モデルとなる

2003-2007年

✓ローンやファンド出資と支援携帯を多角化

✓マイクロファイナンス機関が発行する債券の信用補完

✓マイクロファイナンス機関向けシンジケートローン

IFCの取り組み② カタリスト（触媒）としての役割

2008年～2012年

2008-2009年

✓ 金融危機対応

顧客ネットワークの支援及び流動性支援

2010年

✓ 支援先とインパクト拡大のための新しい戦略立案

2011-2012年

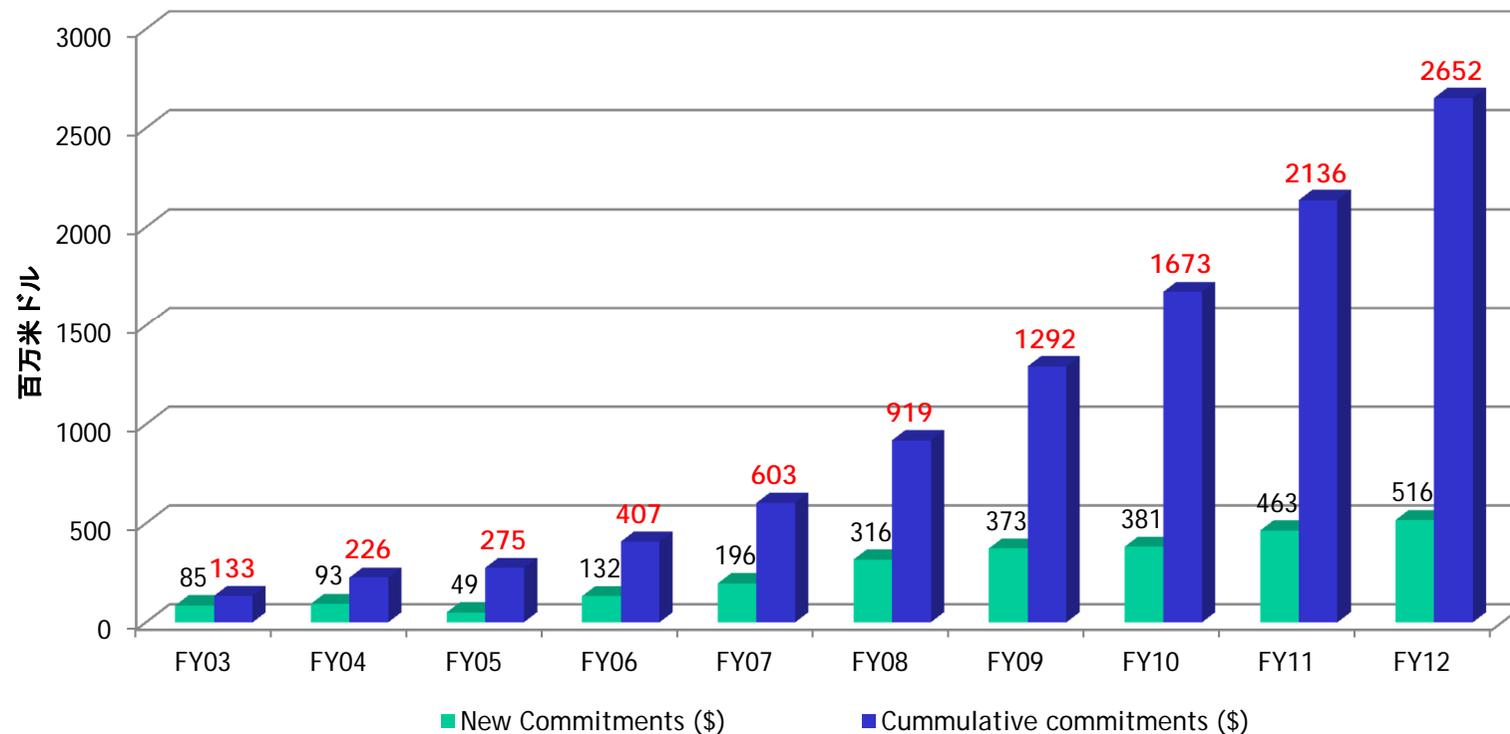
✓ 大規模なマイクロファイナンス機関向け投資（バンダン（インド）、フィンカ、エクイティ銀行（ケニア）、BTPN（インドネシア））

✓ 貸出促進と携帯機能の活用

✓ 画期的な日本のマイクロファイナンス債

マイクロファイナンス投融資実績：安定的成長

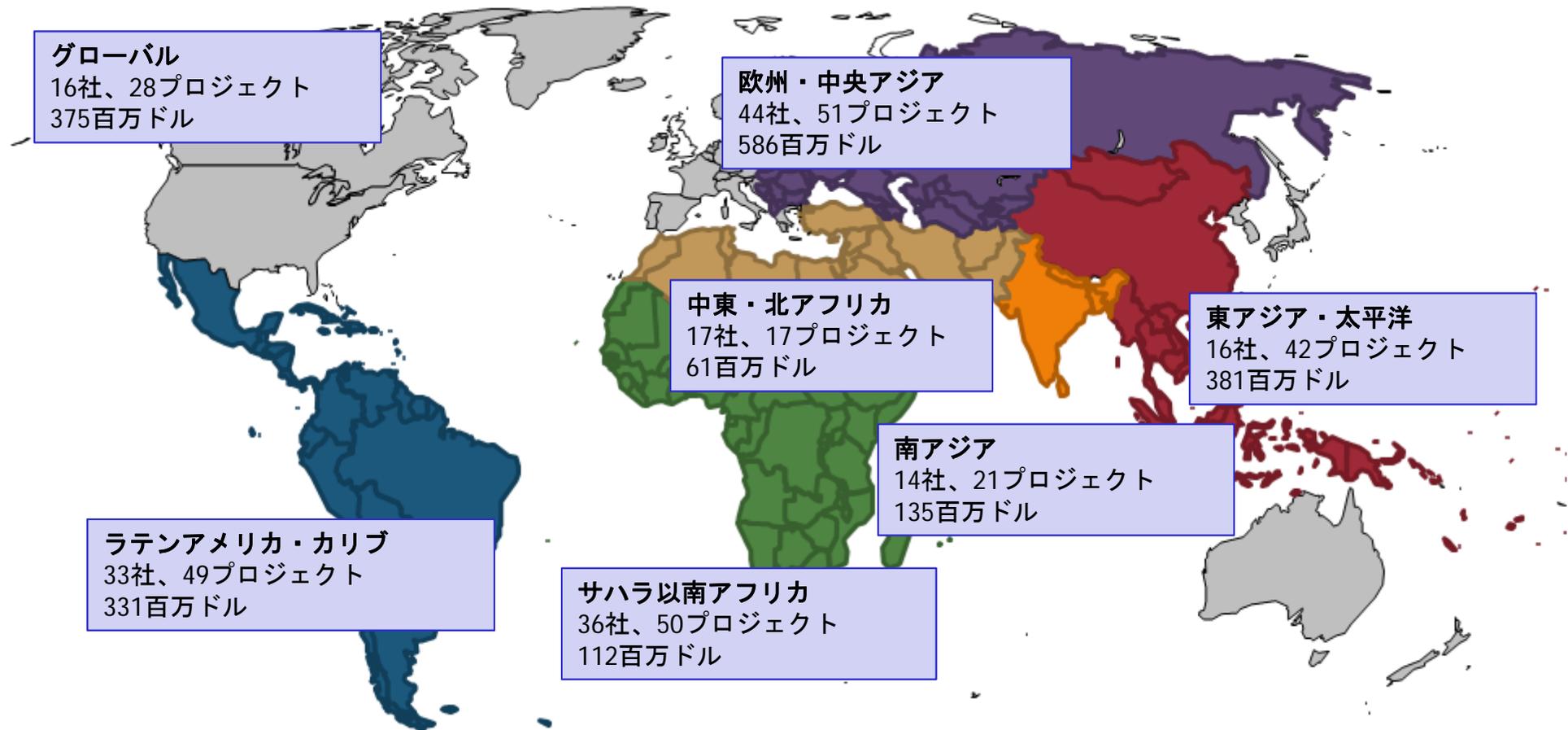
2012年度の新規承諾額は単年度で516百万ドルに達し、累計で26.5億ドルとなった。



マイクロファイナンス・地域別投融資実績

投融資先178社、258プロジェクト、19.8億ドル*

2012年3月31日時点



* IFCの承諾金額であり、ファンド経由の出資も含む

東アジア・太平洋地域の実績

- 投融資先15社、35プロジェクト。投融資先を継続的に支援することによる実績。
- 投融資先15社のうち4社はIDA融資適格国、6社はフロンティア国の企業
- 投融資先を通じた借入人は254万人。今後も堅調に増加する予定。
- IFCのプレゼンスはモンゴル、中国、インドネシア、カンボジア、ラオス、パプアニューギニアに拡大。今後フィリピン、ベトナム、東ティモールへも拡大すべく努力中。
- ①銀行とノンバンク、②従来型金融商品と新商品（例：商業銀行の小口融資活発化、バイクローン、法人金融、エージェンシーモデル）、③新規案件と買収案件、④国際的展開と地場集中、のバランスが重要。
- 世界的代表事例：ハスバンク（モンゴル）、アクレダ銀行（カンボジア）、期待される事例：CFPA（中国）、BTPN（インドネシア）
- IFCのアドバイザーサービスとのリンク。15社のうち12社がアドバイザーサービスの顧客。

南アジアにおけるIFCの実績

過去4年間における著しい拡大

南アジアにおいて22社の関係先

16社の投融資先

ファンドを通じて17社へ投資

多くのパートナーシップを構築

支援先の広がり

顧客数1,580万以上

ホールセール機関、リテール機関、双方との関係

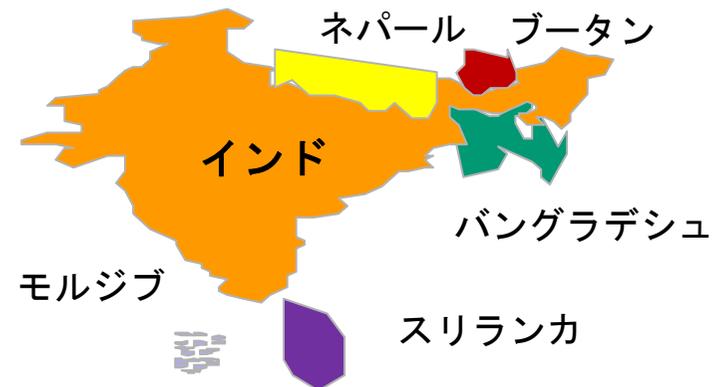
財務状況

全般的に良好な財務状況を堅持

投融資先については一部を除き概ね良好

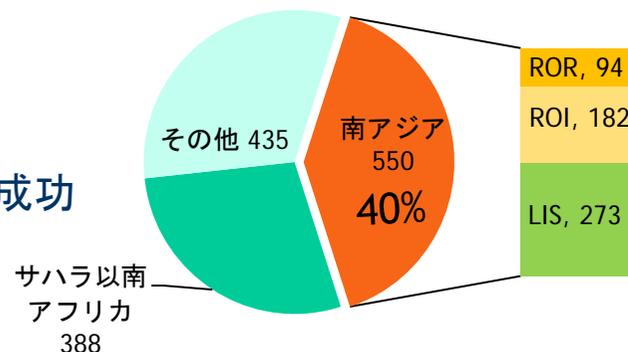
直接投融資、ファンド出資、いずれも売却・退出に成功

6億人以上が金融サービスにアクセスがない状態



世界の最貧困層2005

(百万) (PPP、1日当たり1.25ドル)



2012年と今後の取り組み 支援先とインパクトの拡大

- 人口の多い国へのフォーカス: 15カ国で世界の貧困層の75%をカバー
 - 中国、インド、エチオピア、ナイジェリア、南アフリカ、パキスタン、バングラデシュ、メキシコ、インドネシア、ロシア、ブラジル、トルコ、エジプト、モロッコ、フィリピン
- 貸出促進と多角化: 持続可能性と貧困削減へのキー
 - 規制制度の改善
 - 事務管理部門の能力強化
 - インセンティブの仕組み
 - 金融商品多角化(マイクロ保険等)
- マイクロファイナンス機関の人材・組織の能力強化: (アフリカ、カリブ、中央アジア、中東北アフリカ、太平洋諸国)
 - 地場もしくは地域の旗艦マイクロファイナンス機関を設立
 - 既存の金融セクターへの融合
- イノベーションと技術: マイクロファイナンス産業の発展と支援先拡大のための条件
 - ストラクチャードファイナンスによる新しい資金源の確保
 - 金融商品開発と携帯電話バンキングをサポート

Annex - プロジェクト事例紹介

コンパルタモス(メキシコ) 債券発行とIPO

□ 沿革

- 1991年 5万米ドルの資本でNGO設立
- 2001年 SOFOLへの移行、IFCの出資参画
- 2005年 メキシコ初のマイクロファイナンス機関
- 2006年 銀行への転換

□ 初期投資

- 出資金 66万米ドル
- 借入金 100万ドル

□ これまでの実績

- 2004年 IFCによる信用補完を利用した、マイクロファイナンス機関で初の機関投資家向け債券発行(5億ペソ、米ドル換算で45百万ドル)
- 2005年 次のトランシェ3.1億ペソを発行し、募集に対して3倍の応募あり
- 2007年 ラテンアメリカのマイクロファイナンス機関として初の株式公開をし、407百万米ドルを調達。IFCは11,302,644株を売却し、38.9百万ドルの売却益収入。
- 2009年 総資産587百万ドル、自己資本206百万ドル、ROE39%、ROA15.4%
- 2009年 借入人110万人(女性借入人のうち98%が農村地域)
- IFCは継続的にパートナーをサポート(信用状取引と国際展開)



Network Partner/Greenfields ProCreditグループ (PCH)

- ProCreditホールディングス (PCH) は1998年にドイツでIPCにより設立
- IFCはPCHに設立当初から出資参画
- PCHはIFCにとって最も古く、最大の顧客。2008年12月時点でIFCからの投資は累計109百万ドル (うち76百万ドルはネットワーク銀行8行向け、32百万ドルはPCHへの出資参画)
- PCHはアフリカ、ラテンアメリカ、東欧の21の銀行からなる (コンゴ民主共和国、ガーナ、モザンビーク、ウクライナ、ルーマニア、セルビア、グルジア、モルドバ、ボスニア、コソボ、ブルガリア、マケドニア、アルメニア、アルバニア、ニカラグア、エルサルバドル、ボリビア、エクアドル、コロンビア、ホンジュラス、メキシコ)
- 2009年12月時点でPCHは100万件の小口貸出 (マイクロ・ローン) を有している



ProCredit
H O L D I N G

IFCのアフリカにおけるスタートアップ支援

進行中プロジェクト（承諾済）	
1	K-REP Kenya (FY98)
2	Africap (FY03)
3	Accion Nigeria (FY05)
4	ProCredit Congo (FY05)
5	AccessBanque Madagascar (FY07)
6	MicroCred Madagascar (FY07)
7	AccessBank Tanzania (FY08)
8	Advans Ghana (FY08)
9	Advans Cameroon (FY08)
10	Advans DRC (FY08)
11	AccessBank Liberia (FY09)
12	AB MF Bank Nigeria (Access) (FY09)
12	MicroCred Senegal (FY10)
内談プロジェクト（高確度）	
1	EB-Accion Ghana
2	AKAM West Africa
3	MicroCred Nigeria
4	Fides Senegal
5	Access Bank Zambia
間接的プロジェクト	
1	ProCredit Ghana
2	ProCredit Mozambique

